

## 第17回 PI外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年4月8日（火） 午後7時00分～9時00分
2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場
3. 出席者：22名  
 関係者（敬称略）  
 須山 直哉（練馬） 宿澤 藤子（杉並） 本橋 又藏（杉並） 濱本 勇三（武蔵野）  
 村田 あが（武蔵野） 新 守一（三鷹） 米津 鐵雄（三鷹） 渡辺 俊明（調布）  
 橋本 妙子（狛江） 江崎美枝子（世田谷） 栗林 勝彦（世田谷）  
 地元自治体  
 平野 和範（練馬区部長） 倉田 征壽（杉並区部長） 井上 良一（武蔵野市課長）  
 柴田 直樹（三鷹市部長） 新谷 景一（調布市部長） 大川 宗男（狛江市部長）  
 栗下 孝（世田谷区部長）  
 国土交通省・東京都  
 川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）  
 成田 隆一（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）
4. 傍聴者：約50名
5. 概要：

### 【必要性の有無（影響）について】

- ・大深度を前提とした場合の説明をするべき。
- ・交通量については、将来の開発等を見込んだものを出していくべき。
- ・外環本線の交通量の資料が出てこない理由を説明すべき。
- ・通過する車輛の安全対策について、考え方を説明すべき。
- ・シールド直径18mの場合と16mの場合の危険度について説明すべき。
- ・地表面に出てくる部分について、どうなっているのか分かるように説明すべき。
- ・換気塔からの排出ガスが地上に降りてくる範囲、換気施設の大きさ、面積について説明すべき。
  - ・大深度になっても、地表に出てくるところの影響は、以前提出した資料と大きな変化がないと考えている。
  - ・将来交通量については現在作業中であるが、現在走行している交通が外環が出来てどのように変わるかについては、資料で提出する。
  - ・危険度の問題、通過車輛の安全対策については、重要な検討事項と認識しており、通常時、火災発生時など、今後の設計の中で詰めていく。また、アクアラインでどのような排煙処理をしているのか、模型などを用いて説明する。
  - ・図面については、模型を用意し、立体的に説明する。
  - ・換気施設は、インターチェンジが無い場合でもジャンクションの数は必要であり、最低3箇所は必要。インターチェンジがある場合は漏れ出しを防ぐために換気施設を設置しなければならない可能性がある。数や位置は詳細な換気量計算が今後必要。
  - ・換気施設の規模等については、実例等で説明したい。（国回答）
- ・大深度地下の場合、用地買収が必要ないと思うが、ある場所で上部の土地を買い取ってもらい、公共用地にすることについて見解を聞きたい。
- ・大深度の場合、上の制限は無くなると思う。上と下を一緒に議論するのは混乱するのでは。
- ・外環の必要性について議論している段階なので、都市整備マスタープランは外環と切り離して議論するのが本筋ではないか。
- ・用地買収はJCT等の最低限必要なところは分かるが、必要がなくなった場合どうするのか。
  - ・相続問題等、生活再建のための買い取り制度については、昨年、国の方で制度をつくったところ。
  - ・建築制限に対するの補償であるが、今の制度の中では都市計画制限に対する補償はできない。
  - ・東名高速から中央道間は高速道路に付属した街路であるので、高速道路が高架構造から地下構造になれば付属する街路の機能は無くなる。その他の街路については、高速に関わらず、街路ネットワークの必要性、代替性等機能面での必要性を検討しなければならない。
  - ・まちづくりに関しては、再開発や区画整理などの各区市のマスタープランと整合させる必要があるため、今後地元の皆さんや地元自治体と議論していく。
  - ・買い取りした用地については、事業用地、代替地、まちづくりの種地等として活用していく。（東京都回答）

### 【その他】

- ・次回は4月24日（木）に開催する。運営懇談会は、4月17日（木）を予定。